

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	有限会社たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	愛知県瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	令和元年10月 3日	評価結果市町村受理日	令和 2年 1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivogvoCd=2392300162-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅で行っていたこと、好きなこと、好きな食べ物など極力できるよう職員は忙しいながらも頑張っています。毎日の散歩は勿論、利用者には風、太陽、花の匂いなど感じて頂けるよう、なるべく外に出掛けるようにしています。また近所の商店街の催し物や瀬戸物祭りは2日間で全員の利用者と出掛け美味しいものを食べたりゲームに参加され景品をもらい喜んでいました。当ホームはメニューを決めていないので利用者に食べたいモノを聞いたり行事食は少しご馳走を作ります。おやつはなるべく手作りのものを出すようにしています。この夏は暑く余り水分も摂ってくれないので、水ようかん、わらびもち、お茶ゼリーなど工夫しています。誕生日会は家族にも参加して頂き、ケーキは土台は職員が焼きますが、デコレーションはみんなで飾ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家ではないけれど家のように」、「家族ではないけれど家族のように」を合言葉に、職員がチームとなり、住み慣れた地域での暮らしを支援している。日々地域の商店街に散歩や買い物に出かけ、馴染みの人々と言葉を交わし、近隣の保育園児と交流して地域の一員として認知されている。外部評価に際し、職員が自己評価をして1年を振り返り、サービスの質の向上に繋がるよう話し合っている。利用者一人ひとりの思いを大切に、急な利用者の要望にも応えている。利用者や家族の笑顔に支えられ、職員は明るく楽しみながら日々の支援にあたっている。管理者は職員のスキルアップや資格取得を望んでおり、ホーム内の勉強会や外部研修への参加を計画的に進めてきた。地域に密着したホームとして市の福祉避難所にも認定され、今後の地域貢献にも多に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示しており、全職員で共有し利用者一人一人に寄り添い、笑顔が見られるよう支援している	「普通の家で生活し、楽しい人生を送る」を理念としている。利用者家族にも気軽に来てもらい、利用者一人ひとりがその人らしく楽しく暮らせるよう支援し、理念に沿ったケアを実践している。	職員によって理念に対する意識に開きがある。新しい職員にも理念が浸透するよう、あらためて理念を振り返る機会を設けることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なるべく地域の行事(お祭り、運動会、夏祭りなど)に参加したり、散歩などで近所の方々に声を掛けて頂き顔を覚えて頂いている。運営推進会議は利用者も参加しています。	地域行事に積極的に参加し、ホーム行事には近隣住民が参加して双方向の交流がある。散歩時には近隣にある保育園の園児や地域住民と交流し、地域の商店街へ頻繁に出かけ、地域に根差したホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員も認知症ケアの社内研修、社外研修で学んだり職員会議でモニタリング評価や話し合いを行っている。運営推進会議に於いて地域の方には利用者の状況を報告したり職員にも状況など聞かれる場合もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告やほっとだよりの写真を見ながら説明報告をしている。利用者も参加するので、地域の方とお話しもしています。利用者には、毎回ほっとだよりの生活の状況や不満ややって欲しいことなどを管理者が聞いている	運営推進会議には、利用者、家族、地域代表、行政が参加して年6回開催し、意見や質問も多く活発に議論している。ボランティアや地域の情報などの提供があり、目標達成計画の進捗に寄与している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談しやすい関係が築けている。運営推進会議には必ず出席があり、その都度ご意見や相談、指導など受けている	運営推進会議には市職員と地域包括支援センター職員が毎回参加しており、助言や情報提供があり、良好な関係である。市も参加した介護事業者協議会に参加し、包括と共に認知症サポーター養成講座を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを主に身体拘束はしないというホームの方針なので見守り重視で行っている。運営推進会議でも毎回、身体拘束をしないケアについて話し合っている。年2回社内研修で再度職員に周知している。玄関の施錠については、家族からも外部不審者侵入防止のため施錠している	運営推進会議と並行して身体拘束廃止適正化委員会を開催し、そこで出された意見は職員にフィードバックしている。職員会議時に行われる勉強会で話し合い、どのように対応すればスピーチロックを回避できるか具体的に検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の社内研修で高齢者の虐待防止法について再確認しているが、職員からも転倒の危険性のある利用者に大きな声で「座ってて！」と言ってしまうことがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は権利擁護について学んでいる。現在はこの制度を利用している人はいないが、今後、増えて行くと思うので職員も知識を持つようにしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。特に契約時に終末期ケアについて家族には十分に説明をしている。介護保険改定時は本人家族に文書にて同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて必ず本人家族にご意見、要望がないか聞いている。また、家族の訪問はよくあるので、その都度言いやすい雰囲気にはしているつもりです	家族の訪問は多く、介護記録を見てもらい気軽に話ができる関係を築いている。家族会ではホームの課題を相談し、意見や提言を受けて運営に活かしている。利用者の誕生会は家族の都合に合わせて開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、問題が生じたら、代表者、管理者を交え話し合うようにしている。管理者は自分の考えを押し通すのではなく、必ず職員で相談して決定していく	職員同士や管理者との関係は良好で、日常的に話し合う機会が多く、疑問点はその場で解決するよう努めている。職員会議での発言も活発で、業務改善に繋げ、会議に参加できなかった職員にも周知している。	管理者は、職員のスキルアップや資格取得を進めたいと考えている。その方針を推進し、引き続きの人材育成に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はもう少しホームでの忙しい状況を把握してほしい。職員不足や利用者の重度化もあり管理者は悩んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修にも今回2名参加している。外部評価の目標でもある「職員の知識の向上に努める」年間研修予定に沿って毎月社内研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸介護事業者協議会主催の会議にはなるべく参加している。他事業者との交流もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普通の生活の中で動作、顔の表情などで困っていることを感じつつ声を掛けたり話を聞くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時など、家族には利用者の様子を話し合ながら困りごとなどさりげなく聞き管理者に伝えている常に笑顔で接するように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの理念に沿って、なるべく自宅でやっていたこと、好きなことなどが継続できるように職員全員が支援していくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が「家族ではないが家族のように」「自宅ではないが自宅で過ごしているように」の思いを大切に支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日会は家族の出席できるよう日にちの調整をしたり、運進会議や行事などなるべく出席できるよう声掛けをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時など、よく知り合いに声を掛けられたりしている。ある利用者は、年賀状を20枚ほど書かれ、頂き物が届くとお礼状を書かれています	友人が来て談笑したり、商店街では馴染みの人々と交流し、馴染みの理・美容室には職員が付き添いの支援をしている。自宅から植栽や金魚を持ち込んで世話をし、趣味の木目込みやギター演奏も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルもあるが話を聞いたりして不満事を解決できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、外で会った時など声を掛けたり、掛けて下さったりしている。ホームにも遊びに来てくださったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	急に外に行きたいとの要望が良く出るが職員は忙しい中、時間を作り対応している	日々の支援の中で利用者の思いを聞き取り、口頭や申し送りノートで情報共有して実現できるよう取り組んでいる。急な要望があった時でも利用者の思いを優先し、可能な限りすぐに対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者のやりたい事、好きなこと。好きな食べ物など把握しており、忙しい中対応するように心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に声掛けをし、また話に耳を傾けその人らしい一日が過ごせるよう、常に考え、見つけ支援していきたい		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で毎回、モニタリング評価し、継続するか、見直すか決め、計画作成担当者が作成する	職員会議でモニタリングを全員で行い、利用者や家族から出された意見も踏まえ、3ヶ月毎に介護計画を見直している。介護記録には目標を明示し、それを達成するための支援の実施状況を毎日記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士で分からないことや情報を常に話し合い見直しに活かせるよう提案していく		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろな社会資源を活用できるよう情報を収集し、また提案できるように勉強していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まずは職員がどんな社会資源が活用できるか今後の課題として、年間研修予定に組み込んでいくようにしていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の他に今までの馴染み病院に家族が付き添ったり、職員が付き添ったりして関係を継続している	ホーム協力医の月1回の往診と訪問看護師の週1回の健康管理が連携し、緊急時も24時間の対応がある。馴染みのかかりつけ医や専門科の受診は原則家族対応としており、困難な場合はホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師に相談し、介護士ではできない処置をしてもらっている。一人一人丁寧に見て貰っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院の相談員とも密に電話などで情報を共有している。今回も転倒骨折した利用者を早期に退院してホームに帰ってもらう。家族は大変喜んでおられた。9ヶ月前も転倒骨折した利用者		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に看取りを経験した。契約時に家族にはホームでの看取りが出来る場合と出来ない場合を十分に説明している。またその時期に来た場合は主治医、家族とも話し合い本人、家族が満足した看取りができればとおもう	入居時にホームの方針を説明し、家族の意向を聞き取っている。ホームで看取りができるかはその時の状況によるため、状態が変わる都度家族の意向を確認し、協力医も交えて話し合っている。看取りには、協力医や訪問看護師の協力が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応のマニュアルは周知しているが、実践の訓練はしていない。今後考えていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	できるだけ数多く訓練を行っている。先日は地震と火災を想定した実通報訓練をした。利用者が自ら頭に座布団をのせ真剣に取り組んでいた	運営推進会議で災害時の対応について話し合い、助言を得ている。ホームは市の福祉避難所に指定されており、家族の承諾も得ている。地震、火災、夜間と様々な場面を想定し、最低年2回防災訓練を行っている。	非常食飲料やその他装備品の備蓄が、十分とは言えない現状がある。具体的に場面を想定し、見直しをかけることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は目上の方なので言葉使いに注意し声掛けをしている。以前のプライバシー保護の勉強会で、ついつい大きな声で「トイレに行く？」トイレの戸を開けのケアをしてしまったことなどがあった	「利用者は人生の先輩である」ことを忘れず、敬いの気持ちを持って接している。一人ひとりの思いを尊重し、無理強いをせず、職員主導とならないよう心掛け、やりたいことができた暮らしを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り散歩、園芸などを聞き取りをし支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園芸の好きな人には、庭に出て苗を植えたり、植木の世話を一緒にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一か月半に訪問理容があり、さっぱりしている。入浴時には着替える服を本人と一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事には普段より少しご馳走をし、食べたい物など聞き楽しんで頂けるよう心掛けている。時々外食で好きな物を食べに行く	週2回地域の商店に大まかに食材を注文し、利用者の希望を聞きながらその日のメニューを決めている。誕生日には手作りケーキを提供し、外食や時には散歩時におやつを買うことが利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合った食事形態で提供している。この夏の暑さにも負けず食欲旺盛でした。水分が摂れない利用者には、お茶ゼリー、わらびもち、水ようかんなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。出来ない人は職員が介助している。歯の具合が悪いときは早めに歯科受診をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し時間を見ての誘導のみではなく表情や言動からその都度声掛けをしトイレでの排泄支援をしパット等の使用を減らすことにも繋げている	時間を見計らったの声かけや、表情や仕草を見てのトイレ誘導で、自立度維持を図っている。紙パンツやパッドの使用量を減らせるよう職員間で話し合い、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るよう食事メニューに野菜を多く取り入れたり形態を工夫している。服薬にて排便コントロールをしている人もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴となっている。一人一人の体調を把握し無理なく不安なく気持ちよく入浴して頂けるよう着替えの準備から入浴後の体調確認まで一人の職員が支援している	1日4～5名、週2～3回の入浴機会がある。入浴順は決めておらず、利用者の状況に合わせている。ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯を楽しみ、肌の状態に合わせたシャンプーや石鹸を使って個別対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での安静、昼寝、ソファでの休息など、その日の体調と合わせ支援している。就寝については一人一人に合ったタイミングで就寝介助をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬されている薬について理解に努めている。薬の変更や新しく処方された時は連絡ノートで知ることが出来る症状の変化や疑問があれば主治医、薬剤師に指導を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のやりたい事出来る事を考慮し植物や金魚の世話、作品作り買い物散歩外食等の支援をし気分転換に繋げている。毎日の金魚のエサやりや植物の水やりを楽しみにされている方もおられる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や個人的な買い物、近隣での催しへの参加を支援している。昨年の10月は車3台利用者全員、春日井グリンピアに出掛けることができた。今年6月はヤナ場へ行きアユ料理を食べ足湯に立ち寄り楽しんで頂けた	時間があれば散歩に出かけ、希望に応じた買い物も支援している。2ヶ月毎に花見や遠足等の企画外出があり、買い物や市役所、地域包括支援センターへ出かける時も利用者が同行している。家族支援で出かける機会もあり、外出の機会は様々多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを管理している方や家族から自由に使えるお小遣いをホームで預かっている。趣味の園芸の苗や肥料を職員と買いに行くことも多い。美味しいものを食べに行くこともよくある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名の方は家族や親せき、知人に携帯電話で話しをされている。毎年手作りの年賀状を家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室の室温の調整や換気には気をつけたり季節に応じた衣類の調整を行っている。季節を感じられるよう毎月カレンダーや作品作りをしている。施設全体は明るく清掃はこまめにしている	南側の全面窓から明るい陽射しが入るリビングとダイニングは、別々にスペースが設けられている。玄関には金魚やメダカが飼われている。利用者が餌やりをしている。空気清浄機や加湿器を設置し、汚染物の始末は丁寧に扱うよう努め、臭いにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日をフロアで過ごすことがおいですが椅子席やソファーに座って新聞やテレビを見たりして過ごされています。休養したい時は自由に居室で休みます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの小物や家具。家族の写真などを飾り安心して過ごされています	位牌や家族写真、馴染みの家具が持ち込まれ、ギターの実習をしたり日記を書く、携帯電話で話すなど思い思いに過ごせる空間となっている。居室に籠ることがないように、テレビは居室に置かない決まりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺りが付いており歩行訓練にも利用しています。各居室の入り口には大きな表札が貼ってあり分かりやすくなっているトイレの場所も解りやすく表示がしてあります		